

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 月山)

| | | | |
|---------|----------------|-------|---------------|
| 事業所番号 | 0670102128 | | |
| 法人名 | 株式会社 ジェイバック | | |
| 事業所名 | もも太郎さん黄金 | | |
| 所在地 | 山形市黄金81-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 26年 12月 15日 | 開設年月日 | 平成 18年 3月 25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族部屋として、要介護者とその家族と一緒に暮らせる部屋が4部屋あり、1人部屋も8畳以上あるのでゆったりした空間で生活ができる。

消防署が近いので、緊急時にスピーディーに対応できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念に「自分らしく生きる」を加え日々の暮らしの充実を図り、接遇スローガンに掲げている「あなたの笑顔が私の鏡」を手本にし職員も笑顔で寄り添い、常に利用者の思いを大事に受けとめています。利用者のくらしを家族の絆と地域との関わりを保ちながら支援することを大切にしています。利用者職員は孫と話しているように穏やかな笑顔を見せています。事業所特有の家族部屋を4室設えており、夫婦や親子などで入居出来るシステムでこれからのニーズに応えられる事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|---------|---------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 エール・フォーユー | | |
| 所在地 | 山形県山形市小白川町二丁目3-31 | | |
| 訪問調査日 | 平成 27年 1月 8日 | 評価結果決定日 | 平成 27年 1月 26日 |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

| 自 己 | 外 部 | 項 目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|--------|--|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝礼時、会社の理念と接遇スローガンを全職員が暗唱し日々実践できるように心がけている。接遇スローガンに対して達成度評価表にて自己評価と管理者の評価を比べている。今年度は3回実施している。 | 理念とスローガンを意識して毎日利用者と笑顔でコミュニケーションを図り接している。全職員が自己評価をして管理者が評価を加え、意識を確認し向上心を培っている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加入し、地区の行事等に参加したりしている。地区の理容所の方から来てもらい、入居者様の散髪をしてもらっている。避難訓練には町内の方が数名ほど参加してもらっている。 | 利用者は地区のまつりや催しに参加したり、定期的な歌謡ボランティアの訪問を楽しみにしている。避難訓練に地区消防分団の参加協力も得られている。更に地域と密接に繋がりを深めたいと努めている。 | 樺沢地区地域ネットワークや回覧板などを利用して、事業所からの情報を知らせ地域からの理解が深まるような働きかけを期待したい。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地区の一斉掃除や施設周りのゴミ集め等入居者と一緒に参加している。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2ヶ月に1回実施し、地区の民生委員、町内会長、包括支援センター職員、家族と現状の取組みの報告や意見を伺いサービスの向上に活かしている。会議の報告書を家族に郵送している。 | 利用者や家族等も参加し、活動状況等を報告している。議題によっては地域の警察官や消防分団員の参加もあり、利用者の離設時や災害時は地区の協力的体制の必要性の助言も受けており今後の課題としている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市役所からの連絡や会議にはできる限り参加し連携を図っている。樺沢地区のネットワーク連絡会に今回も出席し、地区の福祉協力員の方々に施設の状況を説明し交流を持つことができた。 | 地域包括支援センターとは相談や月2回の状況報告をするなど日頃から連携を保っている。毎月介護相談員の来訪で利用者の率直な声や、全体的な意見をもらい新たな気づきをケアに活かしている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる | 玄関の施錠はしていないが離設の可能性がある入居者様が施設に馴染まれるまで、ご家族様の了承を頂きユニットの入り口はやむ終えず施錠をしている。 | 不穏な思いで徘徊をしそうな利用者にさりげなく外出に付き添い、常に安全を最優先に考え、また家族にはリスクを説明し理解を得ている。職員は拘束しないことの意識を共有し、虐待などのテーマを決めた学習会を重ねて実践に繋げている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 毎朝の朝礼で高齢者虐待の5項目を唱和し全職員が虐待の無いように日々業務を行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員自体の関わりはないがケアマネ会議の勉強会では外部講師を呼び詳しく学習し、支援に役立てている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に十分に説明させて頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱を設置している。 入所の際にご家族様に契約の説明を行っている。 | 家族等へは毎月担当職員がお便りを送っており、年1回家族会も開いている。面会時には利用者の状態を見ながら意見や要望を伺う機会を設け、話しやすい雰囲気をつくり意見の引き出しに努めている。 | |
| 11 | | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 施設ミーティングや改善シート等で意見を聞く機会を設けている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 向上心を持って働けるような職場環境を作れるように意見を聞いたりしている。 給与水準や労働時間については、本社との交渉となるが改善についての要望はしている。 | | |
| 13 | (7) | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部の研修の案内があれば、出来る限り参加できるようにはしている。また、教育委員で毎月勉強会を実施している。 | 事業所内の教育委員が3ヶ月毎に法人で受けた研修内容を伝達するほかに、毎月学習テーマを決め、その都度学習会担当者が資料作成や事前学習をして実践し、職員相互の研鑽に努めている。職員の資格取得について助成制度も設けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 14 | (8) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | グループホーム協議会の交換研修に参加し情報交換にてサービスの向上に努めている。 | 法人内の交流研修の他に、グループホーム連絡協議会や交流会で得られたレクリエーション活動を参考にしてサービスの質の向上に繋げている。また交流体験学習を通じて得た新たな気づきをケアに役立てている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前や入所後に本人から話を聞いて、環境に慣れるように支援している。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前に本人やご家族様の話を聞き、施設で出来ることと出来ない事等は良く話し、同意を得るようにしている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所前に本人やご家族様の話を聞き、施設で出来ることと出来ない事等は良く話し、同意を得るようにしている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人が出来ることはしてもらい、手伝い等をして頂いた時は「ありがとう」と感謝の言葉をかけ、人生の先輩として尊重している。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月担当者がお便りを書き、生活に変化があれば御家族に連絡し状況を伝えている。面会時にも日々の様子をお話して御家族様との絆を大切にしている。 | | | |
| 20 | | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 定期的に来られる面会者には、和やかに過ごして頂ける様におもてなしの支援をしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様同志の関係を常に把握して、テーブルの配置や席順を配慮している。又その関係が良好にする為に声掛けの支援をしている。 | | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所された後も、病院に面会に行ったりしてこれまでの関係を大切にしている。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 担当者が本人のやりたい事やして欲しいことを聞きだし、御家族様からも話を聞いて検討しアセスメントを行っている。 | 表出の困難な利用者からは問いかけの反応やうなづき、些細な表情から思いを汲み取っている。家族等からも情報を得て本人の意向と照らし合わせて確認しながら把握に努めている。日々の気づきを申し送りノートに記し全職員が共有し統一した対応を心掛けている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前に本人やご家族様から情報を聞き出して支援している。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の申し送りやミーティング等で情報を共有し統一したケアを心がけている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日々の申し送りやミーティング等やカンファレンスで情報を出し合い、今後の介護計画に反映している。 | 担当職員はモニタリング時小さな変化も見逃さず報告し、家族等の意見や要望を聞き、本人の意志を尊重し安全な暮らしと今できることの継続をめざしてプランを作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録は気づきや工夫を記録し、申し送り時やケースカンファレンスで情報を共有しながら介護計画に反映している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | | | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の理容所の方に出張していただいたり、近隣のボランティア様の毎月のカラオケ等で良好な関係を築く事ができている。 | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 御家族様と本人の意思を尊重しながら医療機関を受診している。基本は家族対応だが往診に来て下さる地域の医療機関があり、そちらに移管した入居者様もいる。又遠方や御家族の支援が得られない方は職員が受診同行している。 | かかりつけ医へは家族等付き添いを基本としている。月2回協力医の往診がありほとんどの利用者が受診している。医師に往診前日電話で様子を知らせ毎月のお便りで報告し、変化がある時は家族等に電話で連絡、共有している。 | | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 現在看護職員は配置されておらず、同じ会社の他施設の看護職員の意見や応援を求める事ができる。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は職員が付き添い情報提供し、情報提供書を提出している。又入院中は定期的に面会し退院の際は家族と医療機関の連携を行って退院後に速やかに施設の生活に適応出来る様に支援している。 | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化の可能性のある場合は御家族様と相談し主治医との連携をとり、施設で出来る事を説明している。また、特別養護老人ホームの入所を勧めたりしている。 | 利用開始時に事業所では、医療行為が出来ない事を伝え理解を得ている。機能低下時には、とろみ食刻み食などで誤嚥を防ぐよう見守り、重度化してきたときは医師、家族等と話し合い特別養護老人ホームへの申し込みを進めるなど良い方法を提案しながら支援している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 山形消防署の普通救命講習をほぼ全員が修了している。まだ受講していない職員に関しては今後受講する方針である。 | | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災時の避難訓練は年2回実施している。訓練時は地域の方や消防団の方にも参加して頂いている。災害時の近隣の協力の声かけを早急に行いたい。 | 年2回の訓練時には、地区消防分団の参加も得て想定を変えながら実施している。レスキューシートを導入して、車いすの利用者に使いもしもの時対策を施しました。備蓄庫には水・缶詰・レトルト食などを保管し入れ替えも含めた管理をしている。 | 訓練時、分団の参加を得ているが近隣の方々の参加がない。非常時には力を借りる必要があると思われるので地区の協力を実現することを期待したい。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者様の羞恥心自尊心に配慮し、尊敬感謝の気持ちを忘れないように心がけています。 | 毎日の暮らしの中で、利用者の得意な事や好きな事を見つけ、お願いして手伝ってもらい満足な笑顔を引き出している。入浴時の介助やトイレ誘導時の気遣いなどで自尊心を傷つけないよう配慮している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 意思表示の出来ない方は、本人の表情や行動などを見て対応している。出来る限り本人の希望を聞くようにしている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のペースに合わせた時間を考慮し、その人らしい生活に希望を取り入れながら支援している。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入浴時の着替え、爪や髭などの身だしなみ、ホタンやほつれ等にも気を使い、おしゃれを支援している。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | お手伝い出来る方には声掛けし、進んで行ってもらっている。 | 野菜の下準備やお盆ふき、おしぼり作りなどを手伝ってもらい、職員が献立を作り担当職員が調理をしている。食事の前に利用者が先立ちして嚥下予防の声だし口の体操をしてつかえや誤嚥の無いよう、準備して待ち皆で食べる楽しさを味わう食事の時間を過ごしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1日の水分摂取量を記入し、配慮している。食事が進まない方には食べやすい物にして、栄養バランスを確保できるように支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアの声掛けや、介助の方の状況に合わせて支援している。定期的な歯科往診を受診されている方もいる。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | その方の排泄状況に合わせて、排泄用品を使用し排泄パターンを把握して失禁がないように支援している。 | 利用者に合わせチェック表も利用して、出来るだけトイレで排泄するよう声掛けや誘導をしている。トイレの汚れや汚物を目につかないようきれいにして羞恥心に配慮した介助をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の状況を排泄表から把握し、下剤の調整を主治医と相談しながら行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 希望を聞きながら、午前と午後に分けて入浴して頂いている。 | 入浴時は転倒などしないよう安全に気をつけ、肌の状態などを見ながら介助や見守りをしている。柚子湯、菖蒲湯などで季節の行事を思い出しながらゆっくり入ってもらっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は本人の自由に行っているが、夜間に良眠できるように時間を調整して休息してもらっている方もいる。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の変更があった場合は必ず申し送りし、全員が周知するよにしている。飲み合わせの悪い食べ物は台所に書き抜き周知している。服薬確認は必ず2人で行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個人の嗜好や能力を把握し本人の楽しみ事が出来る様に支援している。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | その都度とはいかないが、ご本人の希望を把握し希望に添える様に支援している。 | 気候の良い時は、利用者からの要望で買い物に出かけたり、季節の花を見に車で出かけるなどして、以前からの暮らしの続きを支援している。 | 利用者で外に出たくない人も多くなっているが、出来るだけ外気に触れる機会を持ち、また室内でのレクリエーションや、ボランティアなど地域資源の活用で利用者の心の活性化を図る取り組みの計画などを望みたい。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 全入居者様がお金の管理をしている方はいません。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 可能な方に関しては、電話や手紙のやり取りを行って頂ける様に支援している。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 混乱が無く安心出来る落ち着いた雰囲気心がけている。食堂には季節感のある物を飾ったりして工夫している。 | 季節や行事に合った壁飾りやはり絵が掛けてあるホールで、和気合い合いと話せる雰囲気の中で自分たちで出来る事を伸ばしながら毎日を暮らしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下に椅子を置いたり、ソファーや和室で対応している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人が使用していた物や愛着のある物等を持ってきていただくように御家族様に声掛けしている。 | 法人特有の家族部屋を持ち、居室には家族の写真や身の回り品を持ち込んでもらっている。ふらつきのある方にはセンサーの利用もあり安心して暮らせるよう気配りしている。清掃担当職員が毎日掃除を行い清潔にしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 出来ることは可能な限りご自身で行っていただき自立心を損なわないように心がけている。 | | |